

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2010年12月 [第53号]



CanDoの活動の方向性 ケニア人による事業運営の状況と今後の展望 永岡 宏昌
ナイロビ便り 引っ越しました 景平 義文
ナイロビ事務所再開 西森 光子
ムインギ東県で 新たに2つの保健活動が始まりました 道山 恵美
～エイズ・リーダー養成と小学校女子児童の妊娠予防～
報告 グローバルフェスタ2010 カンガを使った袋物プロジェクトと教室建設ワークショップ
事務局から

写真は、小学校で女子児童の妊娠予防の話をする調整員ビクトリア・ムニリヤ

ケニア人による事業運営の状況と今後の展望

代表理事 永岡 宏昌

会報 51 号(2010 年 7 月)で報告したように日本人スタッフは、治安上の問題で 7 月上旬から 8 月中旬にかけてケニアを離れ、その間はケニア人スタッフと専門家のみで事業を運営していました。戻って 3 か月余り、その状況を振り返ってみてみます。

ケニア人による事業運営体制の準備は、6 月から 7 月にだんだんと進めました。現金の取り扱いを減らすために、ケニア人の給与を銀行振り込みに、手当て・経費などの支払いを携帯電話での送金*に変更。東京と詳細な連絡ができるように、コンピュータでのワード文書とエクセル・データの作成、およびインターネットの使い方を習得してもらいました。そして、7 月から 8 月下旬までの事業スケジュール、通信方法、人員配置、決済方法などを決めました。

日本人不在の期間、ケニア人スタッフは月曜と金曜に会議を開催。事業の詳細スケジュール、人員配置、車の運行計画、エクセルでのスケジュール表、活動の振り返りと報告書を作成し、電子メールで東京への報告と相談を着実に行ないました。また、専門家との話し合いを続けて、新しい活動 2 件の形成を続けていました。

ナイロビ事務所を再開後、ケニア人スタッ

フによる事業運営の自律的な要素を日常活動に取り入れるように、会議の場所をナイロビ事務所からムインギ事務所に移しました。週末に日本人のみで時間をかけて行なわれていた週例会議は、金曜日の早朝にムインギに移動した日本人とケニア人スタッフと一緒という形に変わりました。時間の制約は大きくなりますが、活動報告と翌週のスケジュール作りのほかに、分析を通じた学習の機会となるよう心がけています。同様にムインギ事務所に移した、専門家を交えた活動形成会議では、ケニア人スタッフが調整役を果たしつつあります。また、会議の場では、ケニア人スタッフが自信をもって発表したり、同僚への助言をしたり、専門家に積極的、創造的な提案や対案の提示などが多くなったり、と自律性の向上が見られます。また、現場でスタッフが専門家の代役も果たせるようになった、という成長も見られました。

今後の課題としては、一部の活動で形成されつつあるケニア人スタッフ・専門家が、日本人インターンを育成する姿勢を強めていくことが重要だと考えています。

* M-PESA: 英国国際開発省(DfID)の援助を受けて、2007 年 3 月から、ケニア Safaricom 社が開始した携帯電話保有者間の少額送金システム。

ナイロビ便り

引っ越しました

調整員 景平 義文

去る 2010 年 9 月 29 日、新しいナイロビ事務所に引越しました。5 月末に起きた強盗事件を受け、安全管理上移転の方が良いとの判断によるものです。旧ナイロビ事務所と同じ通り沿いにあるアパートです。

2007 年末からの暴動の後、移転した旧事務所がかなり手狭だったことから、引越しの話は折に触れて出ていましたが、事件以降、本格的に引越しを検討し始めました。治安の問題から、大通りに面していて、かつスラムから離れていること。旧事務所と同程度以上の広さであること。そして、家賃が大幅に高くないことを条件に、ありとあらゆるアパートを空き部屋がないか尋ね歩き、あれば見せてもらいました。しかし、ナイロビ市内の不動産価格は、世界的な景気後退の中でも高値を維持しているようで、立地や広さの条件に合う物件は家賃で折り合いません。6 月から始めた物件探しは、3 か月半後の 9 月中旬になってようやく終わりました。

旧事務所の大家には 9 月末には引き払うと宣言していたので、そこから慌しく引越しの準備を始め、物件を決めてから 10 日ほどで引越しを完了させました。これが都合 4 つ目の事務所です。過去の引越しの際に、物を盗られたり、インターネットの開設に大が

りな工事が必要だったり、といろいろな苦労があったことを聞いていました。しかし、今回は特に大きな問題もなく終わりました。ただ、契約前にはまことにまめめめしく対応していた不動産屋が、契約をした途端、全く何の対応もしなくなり、要修理となっていた所がいまだに手付かずで残っています。

旧事務所は、雨が降ると壁から雨水がしみ出し、床が水浸しになるような欠陥住宅でしたが、新事務所は今のところそのようなことも起きておらず安心してあります。旧事務所に比べると、事務所スペース、寝室、キッチンなど全体的に広くなり、かなり余裕ができました。引っ越したばかりですが、ずっとここに住んでいたような気がするくらい馴染んでいます。

会員の皆さまもナイロビに来られる際は、ぜひ新しい事務所にお立ち寄りください。

◇ナイロビ事務所の引っ越し履歴

1. 1997 年 11 月(設立前)-ナイロビ事務所設置
2. 2003 年 5 月-最初の引っ越し(その事情は会報 24 号、建物の外観の写真は会報 37 号参照)
3. 2008 年 2 月-2 回目
4. 2010 年 9 月-3 回目

ナイロビ事務所再開

短期調整員 西森 光子

8月26日から10月14日まで、短期の調整員としてナイロビ事務所の再開業務に携わりました。日本人スタッフが戻り、事務所が無事移転するまでの状況を報告します。

8月4日の憲法改正の国民投票後、心配された治安の悪化が起きなかったことを確認し、18日に景平調整員がケニアに戻りナイロビ事務所を再開しました。続く19日に永岡代表理事、26日に私、9月6日にインターンの四登さん、12日に短期調整員の道山さん、そして25日にインターン田さんが到着。その時点で、日本人スタッフとインターンは6人となりました(7月に事務所を閉める際は5人)。

この間、強盗事件が発生したときと同じ事務所に住み続けた場合、再犯が起きる可能性が高いという懸念などから、9月中旬に事務所を移転することが決まりました。近隣エリアで引っ越し先を探し歩き、9月26日に旧事務所と同じギタンガ・ロード沿いにある新事務所へと移転しました(p.3「ナイロビ便り」を参照)。

事務所再開前後での大きな変化は、以前はナイロビで行なわれていた週例会議がムイギ事務所毎週金曜日に行なわれるようになったことです。参加者は日本人スタッフ、インターンにケニア人スタッフが加わる形に

なりました。日本人がいない間はケニア人のみで事業が実施され、日本人が戻った後もケニア人のみで実施している事業があることから、ケニア人スタッフから直接報告を聞き、情報を共有することから必然の変化でした。

ただし、日本人スタッフ・インターンが、より事業の背景、中身への理解を深められるように、これまでと同様に日本人のみでの話し合いも必要です。そこで、ムイギでの会議の翌日、土曜日にナイロビで日本人のみの会議も実施しています。

ケニア人スタッフのみでの事業経験は彼らの自信と責任感を高めたようです。そうした自主性を損なわないようにしながら、日本人が外部者だからこそその視点で気づきや意見を伝えつつ、いかに一緒に事業を作っていけるかということは今の課題の一つです。

一方で、全てのケニア人スタッフが十分に責任を担って適切に業務を行なっているわけではありません。若いケニア人スタッフが事業内容を理解し、調整員として成長できるようにいかにサポートしていくかということも課題となっています。

*筆者は元インターン(2007年2~9月)。8月大学院修士課程を修了した英国からケニアに派遣。

ムイギ東県で新たに2つの保健活動が始まりました

短期調整員 道山 恵美

地域のエイズ・リーダー養成

CanDoは2004年にムイギ東県で、住民の自発的な活動という形でエイズ学習会を始めたのですが、エイズについて話すことは、性や慣習に触れるので参加しづらい人が目立ちました。そこで、村長老と協力しながら当会が積極的に働きかける形に変更して、これまでにヌー郡、ムイ郡、グニ郡のほぼすべての村でエイズ学習会を開催し、多くの人々が参加しました。住民の中には少数ですが、エイズについて自分たちで情報を伝えていきたいという人たちがいます。かねてから予定していた、エイズを地域の人たちに教えていけるリーダーの養成を、学習会が終了した地域で、2010年度から実施することになりました。9月から、当会が実施した保健研修の修了者を中心に、自分たちでエイズに関する知識や情報を収集し、教えていく方法を学ぶ研修を始めました。ムイ郡、ヌー郡、グニ郡の8準区の予定で、11月末現在、3準区で実施。すでに、自ら準備企画して勉強会を実施したリーダーも現れ、少しずつですが成果がみえてきています。

女子小学生の妊娠予防

9月下旬から、ムイギ東県教育局長の要

請を受けた女子小学生*の妊娠予防に関する活動も始めました。低年齢の妊娠は、中退など就学機会の剥奪につながり、未成熟な身体での出産は健康面に問題があります。また、年齢が低いほうがHIVに感染する確率が高いという説があり、性交渉についての知識が不十分なこともあって、HIVやその他の感染症の危険性もあります。経済力のある大人から「プレゼントを少し」もらっての性交渉が、子ども同士以上に多いようです。また、一夫多妻の習慣があり、妊娠から結婚にいたると女子の親へ婚資が提供されることも、親や地域社会が、子どもの性交渉に寛容であることの背景と考えられます。学校を訪問し、教員、保護者、小学生に対してそれぞれ子どもの性交渉、妊娠に関する出張講座や授業を行なうとともに、保護者と教員がこの問題について一緒に話し合う機会を設けています。コンドームを含む性教育の是非、人口中絶のリスク、妊娠中、出産後の就学のあり方、補償金、出産費用や養育責任についてなど、さまざまな課題が上がり、ニーズが高いことが分かってきました。継続的に教員と保護者、地域と学校といった学校地域社会が主体的に取り組んでいくことが重要です。

*小学校は8年制(6~14歳)。18、20歳も在学。

報告<グローバルフェスタ JAPAN 2010> カンガを使った袋物プロジェクトと教室建設ワークショップ

10月2日(土)・3日(日)、東京・日比谷公園で開催されたグローバルフェスタ JAPAN (旧 国際協カフェスティバル)は、今年が20周年。年々、規模が大きくなっています。設立2年目の1999年から参加しているCanDoは、今回2つの新しい試みを行ないました。

ひとつは東アフリカの女性がまとう一枚布、カンガを使った袋物プロジェクトです。事務補佐の仕事の傍ら、諸泉友香さんが制作を担当。カンガに組ませるために、アフリカのイメージの布を探して組ませたりスタンプを押したタグをつけたり、いろいろな工夫がされた袋物が、販売用のスペースの約半分に並びました。「取り合わせがかわいい」「縫製がしっかりしている」などと好評でした。

制作者から

●この度、CanDo 袋物プロジェクトを担当させていただきました。私自身、インターン時代は毎週末マーケットに繰り出し、カンガやママたちがつくった布製品に心躍らせ、あれやこれやと物色しておりました。今回は立場を変え、師匠の佐久間氏の指導のもと作側になったのですが、売る物を作るのは難しい…。要研究です。しかしとても楽しい経験でした。いつか、手にとってくださった方のアフリカへの興味のきっかけになることがあったらいいな、と思っています。

3日午前のブース番



レジ袋風→
裏はストライプ



バオバブと
AFRICAの
スタンプ→

←あずま袋
2種類のカンガ
を使用

←トート・バッグ
裏は水玉とヒョウ
ウの模様の布

諸泉友香

MDGs スクール 10月3日(日)・2時間目
普遍的初等教育の達成
「保護者がつくる(学ぶ・建てる)ケニアの教室」
会場は、花壇の芝生内のテント



元インターンの越智信一郎さんの説明



屋根を動かすのは、手伝いとしてボランティア参加の中学生

そして、「1教室+1基礎」の建設模型をインターンの井本佐保里さんが作成。パーツは動かすことができます。ブースで展示するとともに、2日目、それを用いた教室建設のワークショップを開催しました。



担当者から

井本佐保里

●私自身は現地で直接事業に関わった経験がなかったため、CanDo 専門家が作成した建設マニュアルとにらめっこしながら、既に現地で事業に関わった元インターンの方からたくさんのお話を聞きながら、なんとか準備を進めていきました。心配だった当日のワークショップも最終的に20名程参加者を得ることができほっとしました。今回の準備を通して、保護者による教室建設やその運営方法、そして元インターンの方の熱意を私自身も深く学ぶ機会となりました。

(まとめ 広報担当 佐久間)

事務局から

報告

◇支援

○11月8日、(独行)国際協力機構(JICA)「世界の人びとのための JICA 基金」による「ケニア・ムインギ東県での女兒の早期性交渉・妊娠予防のためのガイダンス形成事業」業務委託契約を締結(2011年7月31日まで。99万9180円)。

◇組織

○10月1日、CanDo 預託金の募集を開始(役員対象)。公的支援金や助成金などでの支出において、入金までに時間を要するため立替払いの必要がある場合に備えることが目的。

◇国内活動

○10月2日・3日、グローバルフェスタ JAPAN2010に出展(pp.6-7参照)。
○国際基督教大学の授業において、NGOの資金調達のテーマから当会紹介のビデオを制作するワークグループに写真、映像を提供(11月9日、授業で発表。出席者からアンケート)。

○11月、「なんとかしなきゃ! プロジェクト」の資料室「HIV/AIDS」で当会の活動を紹介。
http://nantokashinakya.jp/references/episode/aidyday/episode_03.html

人の動き

○9月24日、田 涼子(でん りょうこ)を6か月の予定でインターンとしてケニアに派遣
○10月15日、短期調整員 西森光子が任期を終了してケニアを出発
○11月6日、インターン 井本佐保里が3か月の予定でケニアにおける研修に出発
○11月23日、代表理事 永岡宏昌がケニアから帰国

訃報

保健専門家、ジョナサン・ゾカ氏が11月25日、ムインギ東県グニ郡で会議中にぜん息の発作を起こし、ムインギ町の県立病院まで搬送される途中で死去。ご冥福をお祈りします。
ゾカ氏は、ムインギ西県ミグワニ町の開業医で、2009年から当会の保健活動に参加。

CanDo アフリカ	2010年12月 [第53号]	2010年12月8日発行
発行人:	永岡宏昌	編集人: 佐久間典子
表紙印刷協力:	エルムアカデミー	
発行:	特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo) 〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室	
電話/FAX:	03-3822-1041	
電子メール:	tokyo@cando.or.jp	
ウェブサイト:	http://www.cando.or.jp/	
郵便振替:	口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会	